

No.712 March 2016

ASAHI MACHI



Ⓜ 広報 あさひまち

福寿草が告げる
早春の訪れ



No.712

今年4月1日～

ごみの分別方法と出し方、 一部地区の収集曜日が変わります



旧もやせるごみ袋（左）と新もやせるごみ袋（右）

西村山広域行政事務組合の寒河江地区クリーンセンターでは、4月1日から家庭系ごみの分別方法と収集曜日を変更します。

主な変更点と収集曜日の変更地区は次のとおり。詳細は本誌と一緒に配布されているごみ出しカレンダーをご覧ください。

▶問合せ先 税務町民課 環境・固定資産税係 ☎67-2107

変更点 その1 分別の種類

- ◆資源ごみとして出していた「その他プラスチック」を「もやせるごみ」に統合します。（資源ごみ袋は「ペットボトル」専用とします）
- ◆ガラスびんの分別がなくなり「3色混合」に統合します。

現行の分類	4月1日より
1 もやせるごみ	1 もやせるごみ
2 もやせないごみ	2 もやせないごみ
3 空き缶	3 空き缶
4 その他プラスチック	4 ガラスびん（3色混合）
5 ガラスびん（無色）	5 ペットボトル
6 ガラスびん（茶色）	6 廃乾電池
7 ガラスびん（その他）	7 水銀含有ごみ
8 ペットボトル	8 粗大ごみ
9 廃乾電池	
10 水銀含有ごみ	
11 粗大ごみ	

変更点 その2 もやせるごみ袋が新しく 大型袋の追加&やぶれにくい強い材質へ

- ◆もやせるごみとプラスチックが同一袋になるため、強度のある材質を用いるとともに大型袋(40ℓ)を新たに導入。（現在30ℓと20ℓの2種類）また、乳白色となり中身が見えにくくなります。（写真右）
- ◆20枚入りでの販売でしたが、10枚入りに減らします。価格を下げるとともに、用途に応じた購入がしやすくなります。

変更点 その3 一部地区の収集曜日

- ◆収集量の平準化を図るため、一部の地区で収集曜日が変わります。
- ◆缶はびんの収集日と一緒にになります。

もやせるごみ		
該当地区	変更前	変更後
四ノ沢 和合 川通	月曜日	火曜日
川通口 大暮山 大沼		
本町 西町 栄町		
大町 元町 西原	金曜日	木曜日
前田沢 新宿 緑町		

もやせないごみ		
該当地区	変更前	変更後
大町 前田沢	第1月曜日	第4月曜日
新宿 緑町		
松程	第3月曜日	第2月曜日

ペットボトル		
該当地区	変更前	変更後
大町 前田沢	第3火曜日	第2火曜日
新宿 緑町		
松程	第4火曜日	第1火曜日

ビン・缶		
該当地区	変更前	変更後
大町 前田沢	第1水曜日	第4水曜日
新宿 緑町		
松程	第3水曜日	第2水曜日

目次 ◎ CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
ごみの分別方法と出し方、一部地区の収集曜日が変わります
- P4 特集
震災から5年 あの日を忘れない
- P8 町政スポット
・デュアル・モード・ビークル（DMV）の導入を目指して
・りんご産業のさらなる発展にふじりんごの剪定講習会を開催
・町立公民館等の休館日が変わります
・町議会議長 長岡啓治氏 急逝
・第27回朝日町生涯学習推進大会、各種表彰式
- P12 まちレポ
・ふれあい荘に車両を配備
・朝日町の地酒 豊龍蔵を訪ねる ほか
- P14 住人十色
- P15 それいけ！ウサヒと協力隊、町立図書館コーナー
- P16 健康あさひるばんざい、朝日町文化財探訪
- P17 あさひまちファンを全国につくっていこう！
- P18 町民の声
- P19 戸籍のまど、となりのリンゴさん、広報誌定期購読者募集
- P20 土砂災害防止絵画・作文コンクール

表紙の写真



暖かい日差しが降り注いだ3月8日、西五百川小学校の旧校門付近で撮影しました。

暖冬のせいもあり、今年は例年よりも早い雪解けが進んでいます。日当たりの良い土手に早くも福寿草が咲いていました。本格的な春の到来が待ち遠しいですね。

町長歳時記 (117)

人類の歴史～それは未来への 挑戦の歴史である～

人は誰でも痛い思いをしたくない、また傷つきたくないと思うものです。できるならばそういった痛い思いは回避して、スムーズに順調に人生を歩んでいきたいと思うのは、人として至極もつともな考え方だと思います。

しかし時として、人間の中にはそうとばかりは言えない考えの持ち主が現れるものです。「何をばかなことを考えているんだ」「そんなことできるはずがない」などとそしりを受けたり、またある時は、散々な妨害に阻まれながらも、へこたれず強い信念で立ち向かっていく人もいます。

連続テレビ小説「あさが来た」の主人公白岡あさは、まさにそんな人物として描かれています。

女性が学ぶこと、女性の社会に対して果たす役割、一人の人間としての女性のあり方など、今では当たり前で理解されている基本的な考えさえ、明治期の社会の中ではなかなか理解されませんでした。それどころか「女性に教育は有害無益である」と考えられていた当時の社会環境の中では、「女子大学の創立」など考える素地さえなかったのではないのでしょうか。

若い頃女性であるが故に学びを止められていたあさが、女性の学問の必要性を説く考え方を知った時、たとえそれが困難なことであったとしても、使命感を持って立ち向かっていった。それがあさの生き方でした。自分の人生に真正面から向き合い、強い信念を持って何事にも積極的に行動していくあさの姿に、非常に大きな共感を覚えます。

リンカーンやキング牧師がそうであるように、自由と平等、差別の撤廃など、今では普通のこととして当たり前で考えられていることの中に、その変革期にあって、想像を超える試練に立ち向かい、成し遂げられたことが多々あります。このような努力と忍耐を全うしてきた先人の偉大な生き様の上に、今の私たちの生活があることを忘れてはならないと思います。

怖れず怯まず立ち向かう。そんな力強い勇気が、人類の歴史を築いてきたのです。

朝日町長 鈴木浩孝

特集 震災から5年

あの日を忘れない

震災の3時間前に誕生

「今年の誕生日は5年前と同じ金曜日。あの日記憶がよみがえります」――阿部麻衣子さん（大谷五）は2011年3月11日に誕生した長女の真那佳ちゃんを見つめ、当時を振り返ります。

「午前11時30分頃に出産し、部屋に戻ったのは午後2時頃。初めての出産で、たたくたでした。それから間もない午後2時46分。経験したことのない大きな揺れに襲われます。

「病院には非常用の発電設備がありましたが、発電された電気は医療機器が優先。部屋の明かりは消え、もちろんテレビも見られません。揺れの大きさに驚いたことは事実ですが、『そのうち復旧するだろう』と直後はあまり深刻に考えていませんでした」



▶2011年3月11日、長女の真那佳ちゃんを出産した阿部麻衣子さん（大谷五）。▼真那佳ちゃんをやさしく抱きしめつつ、当時の苦労を振り返った

特別な日に生まれたからこそ伝えたい命の尊さ、大切さ。



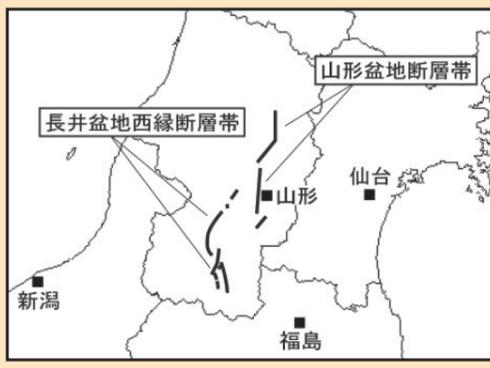
せん。「この子をちゃんと育てていくのか」。テレビに悲惨な光景が映し出されるたび、不安が大きくなり、涙が止まらなかつたという阿部さん。「気持ち安定せず、当時は毎日泣いていました」

そんな中、友人や地域の人たちが阿部さんを応援します。「娘が生まれたことを知っている人は、『赤ちゃん、大事にしてけるな』って燃料を分けてくれました。紙オムツが手に入らなくて、布オムツで苦労していると、東京に住む友人が送ってくれました。娘を気遣ってくださる気持ちが何よ

りうれしかった。みんなに助けられ育った命です」

命の尊さ、大切さを人一倍伝えたい

「2011年3月11日。多くの命が犠牲になったこの日に生まれたことに、複雑な気持ちを感じたこともありました。でも今は違います。特別な日に生まれた意義であると思うんです。命の尊さ、大切さを人一倍伝えるとともに、優しく、思いやりのある子どもに育てていきます。阿部さんはこう話すと、真那佳ちゃんをそっと抱きしめました。



町の近くには2つの断層帯

朝日町は「長井盆地西縁断層帯」上に位置し、町内の数カ所に活断層があると言われています。また、「山形盆地断層帯」からも比較的近いので、いずれかの断層帯で直下型地震が発生した場合は大きな被害が想定されています。

県が公表している資料によると、両断層帯に起因する直下型地震の発生確率は、30年以内で「長井盆地西縁断層帯」が0.02%以下、「山形盆地断層帯（南部）」が1%。地震の規模はマグニチュード7.3程度と想定されています。具体的な災害想定も公表されていて、山形盆地断層帯の地震の場合、朝日町の震度は5強～6強、人的被害は死者25人を含む420人、家屋被害は911棟と推測されています。

「災害は忘れた頃にやって来る」

東日本大震災から5年。苦労された当時の記憶も、薄れ始めているのではないですか。

「災害は忘れた頃にやって来る」とは古くからの格言です。「起きるかもしれない」から「必ず起きる」ものと考え、「防災」だけでなく「減災」という観点で日々備えることが大切です。5年という節目を機に、家屋の耐震化や備蓄品の準備、家具の固定などあらためて考えてみましょう。



総務課 主査兼防災係長 安達 和史

町の備蓄品はどれくらい？

有事の際への備えが必要なのは町も同じです。町は左記の備蓄品を役場、西部公民館、北部公民館、和合防災拠点施設の4カ所に分けて用意しています。

- ▼非常食 (アルファ米) 2400食
- ▼飲料水 3.6トン分
- ▼毛布 3200枚

「ご家庭にありますか？ あらためて確認したい備蓄品」

飲料や食料を含め、有事の際に役立つものをそろえておきましょう。

- ▼懐中電灯（ラジオ、携帯電話充電器付が良） ▼乾電池 ▼飲料水（1人1日3リットルが目安） ▼保存食 ▼毛布 ▼ウオータータンク ▼軍手 ▼救急医薬品・常備薬
- ▼ろうそく、ライター（マッチ） ▼ガムテープ ▼ティッシュペーパー ▼ウェットティッシュ ▼ビニール袋 ▼食品用ラップ ▼アルミホイル ▼レジャーシート ▼卓上コンロ ▼ガスボンベ ▼アウトドア用万能ナイフ ▼水のいらぬいシャランプー ▼マスク など



町東部の菖蒲田浜海岸。海沿いの集落は津波で大きな被害を受け、高台に作られた住宅団地に移転した

七ヶ浜町の概況

(平成 28 年 3 月 1 日現在)

- ▶人口 19,265 人 (平成 23 年 3 月 11 日現在 20,855 人、△ 1,590 人)
- ▶世帯数 6,485 世帯 (平成 23 年 3 月 11 日現在 6,568 世帯、△ 83 世帯)
- ▶高齢化率 26.0% ▶少子化率 12.1% (いずれも平成 27 年 4 月 1 日)
- ▶仮設住宅利用状況 96 戸・246 名 (プレハブ応急仮設住宅 42 戸・93 名、民間みなし仮設住宅※ 54 戸・153 名 ※民間事業者の賃貸住宅を「(応急) 仮設住宅」と国や自治体のみなした賃貸住宅)

(表 1) 町内小中学校の耐震化状況

学校名	校舎	体育館	
		実施年度	実施年度
宮宿小	必要なし	—	建て替え H23
西五百川小	補強済み	H21	建て替え H24
大谷小	必要なし	—	吊り天井の改修 H28
朝日中	補強済み	H22	補強済み H22



平成 24 年度に完成した西五百川小学校体育館

(表 2) 町内各公共施設の耐震化状況

学校名	工事内容	実施年度
役場庁舎	耐震補強	H24
町民体育館	耐震補強	H24
北部体育館	耐震補強	H24
健康増進センター (西部)	必要なし	—
朝日中武道館	吊り天井の改修	H27
高齢者生産活動センター (いもがわ温泉)	耐震診断を実施。必要に応じて工事	H28

震災後の備えは？

公共施設の耐震化工事

東日本大震災の発生と前後し、町は学校や公共施設の耐震化工事に取り組んできました。震災後は耐震工事に関する国の交付金が拡充されたのを受け、工事を加速。西五百川小、宮宿小の体育館はいち早く建て替えを済ませ、建物本体の工事は 24 年度までにはほぼ終わっています(表 1・2)。近年は本体以外の付帯設備の工事に移行し、27 年度は朝日中武道館の吊り天井の改修

日中武道館の吊り天井の改修工事を進めました。大谷小体育館の吊り天井については、建設から 16 年と比較的新しいものの、耐震基準の改正により改修が必要になり、今年度の繰越事業で 28 年度(4 月以降)に実施します。

また、町は今年度防災行政無線を整備。一斉放送が可能になり、今後、災害時の情報発信に力を発揮します。



このほど吊り天井の改修を終えた朝日中武道館

建物・設備を更新し、発電能力アップ

「朝日川第一発電所リニューアル事業」



▶運転開始 昭和 33 年 11 月 ▶最大出力 9,000kw
 ▶発電方式 ダム水路式 ▶最大有効落差 150.29 m
 ▶最大使用水量 7.2m³/秒 ▶詳細 木川ダムからおよそ 6.5 キロにわたる導水路によって太郎地内まで引かれた水が落差約 150 m の鉄管を伝って落下し、2 基の水車を回している。第二発電所とともに、西川町にある県企業局村山電気水道事務所から遠隔管理されている。

震災を機に再生可能エネルギーの開発を進めている県では、現在朝日川第一発電所(太郎川写真)の建て替え工事(リニューアル)を進めています。

既設箇所への建て替えではなく、現在の変電所位置に新発電所を建設。27 年度までに地質調査や測量、建物の設計を終え、28 年度は建物本体や新たな取り付け道路の工事に着手。平成 32 年 4 月から新たな設備での運転開始を目指します。

新設備では、最大使用水量(最大取水量)は現在の 7.2 m³/秒のままですが、最大出力は既設の 9000 kw を 3% 上回る 9300 kw を予定。発電能力の向上も見込まれています。

震災をきっかけにして深めた絆

友好の町・七ヶ浜町の今

「海の子・山の子交流」を通じて平成 14 年度から当町と交流を続けてきた宮城県七ヶ浜町。平成 24 年 9 月に、「友好の町の盟約を結ぶきっかけとなったのは、東日本大震災でした。」

震災から 5 年が過ぎた今、七ヶ浜町の復興はどれくらい進んでいるのでしょうか。昨年 4 月から同町に派遣されている佐竹友貴主事(写真)がレポートします。



震災で七ヶ浜町は甚大な被害を受けました。地震に伴う津波の高さは 12・1 m におよび、町域の 36・4% にあたる 4・8 km² が浸水しました。死者、行方不明者は 110 人で、住宅被害は 3928 世帯。全体の 59・8% の世帯です。

このような状況下で、七ヶ浜町では被災者の住宅復興を最優先施策としてきました。新たな住宅団地を高台に整備したり、災害公営住宅(町営住宅)を建設したり、さらには被災された現地に再建される方のために、土地区画整理事業に取り組んできました。

高台住宅団地と災害公営住宅は 5 地区に整備し、前者は 194 区画、後者は 212 戸用意しました。すべて平成 27 年中に完成していますが、高台移転を基本とする復興のまちづくりでは、宮城県内で一番早い完成です。

早期完成が実現したのは、住民との密接な関係構築、既存の集落ごとのまちづくり(集団移転)に取り組んだことが大きな理由です。また、住民と行政の距離の近さも要因と

感じます。しっかりとした意志疎通のもと、力を合わせて復興事業に取り組んできました。

震災から 5 年が経過し、住宅復興をほぼ終えた七ヶ浜町の復興事業は今後、次のステージに移行します。被災した水産業や農業など産業面での復興や、海浜部での都市公園(津波防災緑地)整備などに着手します。

朝日町と違って、周囲を海で囲まれた七ヶ浜町。震災から復興へ邁進する町の姿をこれからも見届けていきたいと思っています。



朝日町議会議長 長岡 啓治 氏 急逝

朝日町議会議長の長岡啓治氏（常盤）が3月2日午前11時3分、胃がんのため逝きました。満68歳でした。

長岡議長は平成16年11月に町議会議員に初当選し、以後4期連続当選。平成23年5月に議長に就任され、優れた指導力と豊かな見識をもって円滑な議会運営にあたり、町の振興発展に貢献されました。

葬儀及び告別式は、3月5日しめやかに執り行われました。ご冥福をお祈りいたします。

故長岡議長の主な略歴

- 昭和23年2月 常盤に生まれる
- 平成16年11月 朝日町議会議員に初当選
- 平成23年5月 朝日町議会議長就任
- 西村山広域行政事務組合議会議員就任
- 平成26年1月 山形県町村議会議長会監事就任
- 村山地方町村議会議長会監事就任
- 平成27年6月 西村山広域行政事務組合監査委員就任
- 山形県町村議会議長会監事就任

長岡議長逝去に伴う町議会議員の補欠選挙は、公職選挙法の規定により、今年執行の町長選挙の折、実施される予定です。

町立公民館等の休館日が変わります

■教育文化課 生涯学習係 ☎67-2118

町教育委員会はこのほど、町立公民館と町民体育館の休館日を見直し、4月1日から毎週月曜日の休館日を基本的に廃止します（※）。「月曜日も利用できるようにしてほしい」「子どもたちに遊ぶ場がない」など、町民の皆さんから寄せられている声を受け改善するもの。生涯学習の場の提供や子どもたちの居場所づくり、町民のスポーツ活動のさらなる充実をめざします。

◆4月1日以降の利用案内

施設名	休館日	開館時間
中央公民館 (創遊館)	第2、第4 月曜日	午前9時～午後10時
西北部公民館	無し	午前9時～午後10時 ※休日、祝日および午後5時～午後10時は鍵貸出委託対応
町民体育館	無し	午前9時～午後10時 ※平日午前9時～午後5時は教育文化課職員が対応
町立図書館	毎週月曜日 ※祝日の場合は 火曜日	午前9時～午後7時

※中央公民館（創遊館）は定期的なメンテナンス管理の都合により、第2・4月曜日を休館日とします。
※年末年始は各施設ともに休館。その他の特別な事情で休館となる場合は、お知らせ板等で事前にお知らせいたします。

役場の入口で 情報を発信！

役場庁舎の開発センター側入口にこのほど、ブランド化推進プロジェクトと、ふるさと納税の関連グッズを集めたコーナーを設けました。

「親しみやすい役場づくりプロジェクト」の一環。役場庁舎側入口のウサビグッズコーナーとともに、特に町外から訪れたお客さまに好評です。

役場の入口は言わば町の顔。展示物は今後も定期的に更新し、町の取り組みや情報を発信していきます。



デュアル・モード・ビークル (DMV) の導入を目指して

■政策推進課 定住・戦略推進係 ☎67-2112



「DMV 推進協議会」による JR 北海道 DMV 推進センターの視察（昨年8月）

道路と線路の双方を走行できる新たな公共交通「デュアル・モード・ビークル（以下「DMV」）を導入し、JR左沢線と山形鉄道フラワー長井線の接続、駅と観光地間のアクセス向上を目指し、両沿線2市6町と県によって平成25年8月に設立された「DMV推進協議会（会長：内谷重治長井市長）」の取

り組みについて報告します。昨年8月にDMVの開発元であるJR北海道DMV推進センターを視察。実際に乗車をしたり工場を見学したりし、あらためて開発に関する理解を深めました。技術は予想以上に進んでおり、線路と道路走行の切り替え（モードチェンジ）の機能も向上。約15秒という速さで移行できました。

一方、昨年10月に、DMVのみの専用線区による単車運行という一定の前提条件の下ではあるものの、DMV運転保安システムの安全性について、実用化可能との評価が国により示されました。また、協議会が目指すDMVと既存の鉄道車輛との混在運行の可能性にも言及しており、JR北海道における技術開発の再開が待たれる状況となっています。協議会では、今後も導入に向けた活動に取り組んでいきます。

りんご産業のさらなる発展に ふじりんごの剪定講習会を開催

■農林振興課 農政係 ☎67-2114



講師の鈴木治男さん（平）

2月22日、町内産ふじりんごの生産技術の底上げと品質の向上を目的に、「ふじりんごの剪定講習会」が開かれました。講師はりんご栽培歴60年の鈴木治男さん（平）。会場の朝日果実流通センター北側の園地には農家約80人が集まり、熟練の技を学びました。剪定とは、木の隅々まで養分や光が行き渡るようにするため、余分な枝を取り除くこと。鈴木さんは「枝が成長しすぎているかどうかは、枝を振ると分かる」「養分が入りやすいように、枝の分かれ目は芽を長くして切るとよい」など参加者にアドバイスをしていました。参加した若手農家は「多くの木を育ててきた経験があつてこそその技術。その技を学び、私たちもこれから朝日町りんごの品質を守り、良いりんごを消費者に届けたい」と話していました。



1. 体育協会表彰受賞者 (代理出席者含む)
2. 子どもの芸術文化活動表彰受賞者 3. 女性文化教室おどり教室 4. 「星の会」の成原千枝代表 5. 講師によるパネルディスカッション



■ 朝日町体育協会表彰 優秀賞

氏名	職業 (学校)	地区	主な成績
阿部 愛美	霞城学園高 平成 24 年度生	常 盤	平成 27 年度全国高等学校定時制通信制総合体育大会 卓球競技 女子シングルス 第1位
阿部 奨悟	大谷小6年	大谷五	山形県少年柔道形競技会 柔道形競技 第1位
若月真都偉	西五百川小5年	西船渡	山形県少年柔道形競技会 柔道形競技 第1位
岸 優翔	大谷小6年	栗木沢	第 11 回東北ジュニア武術太極拳交流大会 男子ドラゴン入門長拳 第3位
遠藤 大空	大谷小5年	真 中	平成 27 年度山形県春季ジュニアテニス選手権大会 12 歳以下 男子シングルス 第1位
佐藤 慧典	宮宿小4年	新 宿	第 5 回山形県少年少女剣道個人錬成大会 小学生男子 4 年生の部 第1位
岸 夏輝	大谷小3年	栗木沢	第 11 回東北ジュニア武術太極拳交流大会 男子パンダ長拳 第1位
宮宿剣道スポーツ少年団 【渡辺友介 堀文悟 佐藤慧典 樋口煌人 佐藤羽華 堀文慈】			第 46 回山形県少年剣道錬成大会 剣道競技 小学校男子の部団体 第2位

■ 朝日町子どもの芸術文化活動表彰

氏名	職業 (学校)	地区	主な成績
白田 小夏	県立左沢高2年	大谷六	平成 27 年度明るい選挙啓発ポスターコンクール 県審査 特選
齋藤 玲奈	県立左沢高1年	大 滝	第 62 回 NHK 全国高等学校放送コンテスト【校内放送研究部門】全国大会出場
伊藤真菜実	西五百川小4年	長 沼	平成 27 年度山形くらしの文集「うちのにわとり」県総合版 特選
若月 怜音	西五百川小5年	西船渡	東邦書道会全国書道展 YTS 山形テレビ賞 (特別賞)
白川 茂果	西五百川小6年	常 盤	全国土砂災害防止に関する絵画・作文【絵画の部】優秀賞 (国土交通事務次官賞)
阿部 凌太	西五百川小6年	夏 草	山形県土砂災害防止に関するポスターコンクール 優秀賞
鈴木 陽也	西五百川小6年	八ツ沼	東邦書道会全国書道展 開明賞 (特別賞)
海野 真穂	宮宿小1年	西 町	川をきれいにする児童絵画・ポスターコンテスト 金賞
渡辺 咲花	宮宿小3年	本 町	川をきれいにする児童絵画・ポスターコンテスト 銅賞
海野 花歩	宮宿小4年	元 町	川をきれいにする児童絵画・ポスターコンテスト 銅賞
清野 華鈴	宮宿小5年	古 楨	MOA 美術館山形県児童作品展 金賞
堀 ニコ	大谷小1年	中 沢	川をきれいにする児童絵画・ポスターコンテスト 銀賞
白田 玄	大谷小2年	大谷三	川をきれいにする児童絵画・ポスターコンテスト 銅賞
堀 光姫	大谷小3年	中 沢	2015 産経ジュニア書道コンクール【小学3年生以下 A 部門】いきいき賞 (応募総数 7,500 点、小学3年生以下の最高位を受賞)
堀 菜汰	大谷小5年	中 沢	内藤秀因記念第 18 回水彩画公募展「顕微鏡をのぞくばく」優秀賞

第 27 回朝日町生涯学習推進大会、各種表彰式

■教育文化課 生涯学習係 ☎67-2118

町内の様々な団体が活動の成果を発表する「町生涯学習推進大会」が2月28日、創遊館で開催されました。各地区の公民館関係者など約300人が参加。大会では、女性文化教室のおどり教室の皆さんが踊りを披露したほか、民話で町おこしに取り組む「星の会」の成原千枝代表が活動事例を発表。民話を通して地域交流や観光面の活動が紹介されました。その後、「人づくりは町づくり」をテーマに、阿部憲明氏(町社会教育委員/真中)、橋本淳一氏(白鷹町文化交流センターAYU・M館長/白鷹町)、井東敬子氏(鶴岡ナリワイプロジェクトチームリーダー/鶴岡市)、鈴木裕美氏(町女性文化教室運営委員長/西船渡)が意見を交わし、それぞれの立場で人づくりの大切さを伝えました。大会に先立ち、町体育協会表彰式、町子どもの芸術文化活動表彰式も行われ、賞状やメダル、記念品などが贈られました。

■ 朝日町体育協会表彰 殊勲賞

氏名	職業 (学校)	地区	主な成績
清野 嵩悠	早稲田大4年	四ノ沢	第 93 回全日本スキー選手権大会 スキーアルペン競技 男子回転 第8位
若月 未来	仙台大4年	沼 向	第 70 回国民体育大会陸上競技大会山形県予選会 陸上競技 女子走高跳 第1位
布施 雅也	富士大3年	栄 町	第 63 回東北学生剣道選手権大会 剣道競技 男子個人 第5位
五十嵐大義	信州大2年	中 沢	第 47 回全日本大学駅伝対校選手権大会 北信越地区予選会 第1位
海野 静哉	東海大山形高3年	八ツ沼	平成 27 年度国民体育大会山形県予選大会 柔道競技 少年男子軽中量級(-73kg級) 第1位
今井 祐太	酒田光陵高2年	大 町	平成 27 年度山形県高等学校新人体育大会 剣道競技 男子個人 第1位
富樫 春優	山形南高2年	助ノ巻	平成 27 年度山形県高等学校新人体育大会 剣道競技 男子団体 第2位
佐藤 亜美	左沢高2年	新 宿	平成 27 年度山形県高等学校総合体育大会 剣道競技 女子団体 第1位
鈴木 貴大	秋田南高2年	大谷七	第 25 回全国高等学校選抜剣道体育大会秋田県予選会 剣道競技 男子団体 第1位
小野 昂	山形南高2年	大 町	第 95 回全国高等学校ラグビーフットボール大会山形県予選大会 ラグビー競技 第1位
志藤 康平	秋田南高1年	川 通	第 25 回全国高等学校選抜剣道大会秋田県予選会 剣道競技 男子団体 第1位
岩澤 芽衣	朝日中3年	本 町	第 36 回東北中学校剣道大会 剣道競技 女子個人 第1位
朽木 叶	朝日中2年	西 町	平成 27 年度山形県中学校新人総合体育大会 柔道競技 女子個人 44kg級 第1位
松田ちほみ	朝日中2年	舟 渡	平成 27 年度山形県中学校新人総合体育大会 剣道競技 女子個人 第2位
齋藤 とも	朝日中1年	前田沢	第 55 回山形県中学校総合体育大会 剣道競技 女子個人 第2位
朝日中女子剣道部 【岩澤芽衣 川村優貴乃 長岡佑希 松田ちほみ 齋藤とも 齋藤瑞穂 小野舞夢 佐藤百恵 堀美由 渡辺りりか】			第 36 回東北中学校剣道大会 剣道競技 女子団体 第3位 平成 27 年度山形県中学校新人総合体育大会 剣道競技 女子団体 第2位
朝日中ソフトボール部 【澤田美咲 海藤理子 安達千尋 阿部桜 安孫子通 志藤ほのか 遠藤朋 峯田真奈 鈴木康水 安藤幸菜 長岡結衣 白田怜蘭 志藤百首 白田博南 堀愛姫 長岡香恋 遠藤美翔 鈴木美景 志藤七那子】			平成 27 年度山形県中学校新人総合体育大会 ソフトボール競技 第2位

■ 朝日町体育協会表彰 功労賞

氏名	地区	主な成績
宮本 建一	西船渡	朝日町野球連盟の役員を永年務め、平成 17 年 6 月から平成 27 年 5 月まで 10 年の永きにわたり会長の重責を務め、また、平成 25 年 4 月から平成 27 年 3 月まで西村山地区野球連盟の会長を務めるなど大きく貢献されました。
清野 雅英	送 橋	町卓球スポーツ少年団の立ち上げに尽力され、30 年以上の永きにわたり指導者として現在も活躍されています。また、平成 21 年の県中学校総合体育大会においては、朝日中学校初の男子団体優勝に導くなど大きな功績を残されました。



▲相手の隙をついてゴールを狙い思い切りシュート
 ▲激しいプレーで熱戦を繰り広げた

3/6 激しいプレーで真剣勝負 第3回男だけのフットサルde交流会

西部公民館が主催する「第3回男だけのフットサルde交流会」が3月6日に開催され、4チームが熱戦を繰り広げました。女性1人の出場を義務づけていた秋の大会とは違い、男性のみで開かれている本大会。男性だけの大会ということもあり、一味違った迫力のあるアグレッシブなプレーが展開されました。参加チームは少ないものの、盛り上がりは同じで、「男同士だからか思わず力が入る。やっぱり負けたくないですからね」「疲れたけど楽しかった。来年はユニフォームを作って臨もう」と話す参加者。結果は、4戦全勝のガースー黒光り（菅井庸介監督）が優勝しました。



▲疲れも忘れ、大パノラマを撮影する参加者
 ▲多くの参加者で、にぎやかに目的地を目指した

3/6 4年ぶりの絶景に歓喜 春の雪山トレッキング

Asahi 自然観周辺の雪原を散策する「春の雪山トレッキング」が3月6日開催され、県内外から多くの方が参加しました。自然観のエアトップグレンデ頂上から、朝日連峰の大パノラマが広がる目的地「サイツチ峰」を目指した一行。例年より雪が少なく歩きやすいこともあり、約2時間30分で到着すると、目の前に広がったのは4年ぶりに姿を現した絶景。「この景色が見たくて参加し続けてきた。すごく感動した」と、ある参加者は話し、夢中になって景色を写真に収めていました。



▲応援も白熱するビーチボールバレー ▲輪投げは子どもから年配の方まで全員が参加

3/6 30年以上つづく送橋地区レクリエーション大会 オクリンピック

3月6日、送橋地区冬季レクリエーション大会（通称：オクリンピック）が旧送橋小学校体育館で開催され、区民の方々約45人が参加しました。農業の盛んな同地区で、夏冬の農休日を設けようと始まったこの大会。30年以上続く現在も、貴重な区民交流の場となっています。種目はビーチボールバレーと輪投げの2種目。「以前は本格的なバレーボール大会だったけど、小さい子どもお年寄りも参加できるように変更していったんだ」と区長の渡邊秀一さん。この日は町内でも春を思わせるほど暖かく、絶好のスポーツ日和の中、老若男女問わず爽やかな汗を流しました。



▲初回の講師を務めた小沢互山形大学教授 ▲参加者の中には若手女性農家の姿も見られた

2/9~ 創業目指して学びを深める 6次産業化創業支援研修会

町の素材を活用し町で創業することを目的にした「6次産業化による創業支援特別研修会」が、2月9日から計5日間の日程で開催されました。6次産業化とは、1次産業の農林水産物の生産にとどまらず、それを原材料とした加工品の製造・販売や観光農園のような地域資源を生かしたサービスなど、2次から3次産業にまで踏み込んで所得向上や新規雇用の確保をめざす取り組み。研修会には、農業を営む7人が参加。山形大学農学部の小沢互教授による「6次化の意義と役割」の講義を皮切りに、食品衛生や表示、経営支援策、実践者の事例紹介・現地研修などで学びを深め、創業に向けて新たな一歩を踏み出していました。



▲車検証を受け取る齊藤理事長 ▲引き渡された訪問車

2/12 日本財団の助成により ふれあい荘に車両を配備

2月12日、社会福祉法人朝日町福祉会（齊藤宇八理事長）において、日本財団からの助成を受けた居宅介護支援専門員（ケアマネージャー）の訪問車のお披露目式が行われました。事業費総額は約81万円で、助成額は約43万円。車両は財団のシンボルマークをあしらった8色のカラフルなデザインが特徴です。同会で日本財団から助成を受けた車両は5台目となります。齊藤理事長は「利用者様やご家族の方との面談（訪問）の際に大いに活用します。きめ細かなサービスを提供し、これからも地域の高齢者福祉の充実に貢献していきます」と述べました。



▲社員の説明に熱心に聴き入る参加者 ▲この冬仕込みたての新酒を試飲する参加者

2/21 町エコミュージアム案内人の会「ふるさとミニ紀行」 朝日町の地酒 豊龍蔵を訪ねる

朝日町エコミュージアム案内人の会による鈴木酒造（大町の酒蔵見学会）が2月21日行われました。現代の酒造りは機械制御による管理が一般的ですが、「手仕事の細やかさにはかなわない。魂をこめた丁寧な酒造りをしている」と鈴木和香子社長は言います。歴史を感じる建物を興味深そうに眺めつつ、社員の説明に耳を傾ける参加者の皆さん。「いろいろな酒蔵を見てきましたが、全て手づくりなのは見たことがない」と、ある一人の方は話します。利き酒ゲームや数種類の飲み比べも楽しみ、ほろ酔い気分で蔵を後にしました。



緑のふるさと協力隊として昨年4月に来てからおよそ1年、朝日町、そして大沼の生活は新しいことばかりで、驚いたり悩んだりしながら多くのことを学びました。草刈りや除雪、農作物の収穫作業で地区の皆さんと触れ合ったり、例大祭や島まつりなどのイベントで浮島を訪れた観光客と出会ったりと、さまざまな出来事がありました。その中で、失敗しては学んでを繰り返して、私にとってとても実り多い1年でした。

町に来て一番良かったことは、多くの触れ合いです。その中でも最も思い出深いのは、大沼地区の地図看板とパンフレットが完成し



桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平町情報交流アドバイザーと町地域おこし協力隊、緑のふるさと協力隊員による連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。



2月28日に大沼公民館で行われた1年間の活動報告会。30人を超える地区民の前に堂々と発表した中村隊員

「1年間お世話になりました」

朝日町協力隊(緑のふるさと協力隊) 中村 悠 (東京都出身)

たこと。大沼ならではの自然や行事が詰まったパンフレット作成そして地図看板の製作は、私ひとりでは成し得なかったものです。どちらも地区の皆さんのご協力があったからこそ、完成させることができました。

区長さんをはじめとする大沼地区の皆さま、そして町民の皆さま、未熟な私を温かく見守り、そして育ててくださりありがとうございました。私にとって素晴らしい経験になりました。

自分の未来はこれからの行動にあると思っています。4月からは町を離れ、新たな道へ進みますが、新天地でもこの1年の経験を生かして頑張っていきます。



町立図書館新刊案内

「海を撃つ」 吉村 龍一 著



北陸の漁村に育った二十歳の十兵衛は、若くはえの過ちを犯し村を追われる。落命しかけた十兵衛を救ったのは片目の漁師。老練な突き屋を師と仰ぎ、青年は二陸の海で銃撃ち修行を始める。狙う獲物は、メカただそののみ。著者は南陽市出身。

最上平蔵最新作 「おしおの電車」



ふたごのきょうだい・一路とまつりのお父さんは、電車の運転士。そのお父さんが病気で入院することになり…。おはなしを楽しみながら、あこがれのお仕事がよくわかる本。職業への理解がさらに深まる「まめち」(14)。



【ブックテーマコーナー】
「3.11から5年 東日本大震災を風化させず、語り継いでいこう」

▼死んでいない者第154回 芥川賞受賞作) / 滝口悠生 ▼ GEE KSTER / 大倉崇裕 ▼ 倒れるときは前のめり / 有川浩 ▼ ハーメルンの誘拐魔 / 中山七里 ▼ 溺れる月 / 新野剛志 ▼ ガラパゴス上・下 / 相場英雄 ▼ その姿の消し方 / 堀江敏幸 ▼ 花冷えて / あさのあつこ ▼ パピロンの秘文字1 / 堂場瞬一 ▼ ハンニバル戦争 / 佐藤賢一 ▼ よこまち余話 / 木内昇 ▼ キッチン・ブルー / 遠藤彩見 ▼ マーケット感覚を身につけよう / ちきりん ▼ 坂の途中の家 / 角田光代 ▼ 読むオイル事典 / YUKIE ▼ そして生活はつづく / 星野源 ▼ 温泉妖精 / 黒名ひろみ ▼ 異郷の友人 / 上田岳弘 ▼ 水鏡推理2 / 松岡圭祐 ▼ 世界の果てのこともたち / 中脇初枝 ▼ 果樹高品質多収の樹形とせん定 / 高橋国昭 ▼ 西洋菓子店プティ・フル / 千早茜 ほか



ボリュームたっぷりのランチメニューの3品



俊彦さん手作りのバーカウンター

「地産地消」でくつろぎの場を提供

唐木 俊彦さん 恵子さん (八ッ沼)

昨年5月に移住し、ダイニングバーを開店

新五百川橋から八ッ沼・能中地区へ向かう県道沿い、緑の木製看板が目印の「Dining & Bar Kara Kara (カラカラ)」。昨年5月に町へ移住してきた唐木俊彦さん・恵子さんご夫婦(八ッ沼)が12月に開いた、ランチもディナーも楽しめる飲食店です。

「初めは東京で開催された移住希望者向けのイベントがきっかけでした」。こう話すのは恵子さん。実家が天童で、移住地の選択肢としてまず山形が浮かんだのは、後日参加した移住者体験ツアーが決めで「出会った方々の人柄と自然の豊かさに魅せられました」

移住にあたっては、町の「空き家バンク」に登録されていた物件を購入。「移住するにもまずは住む家がないと。朝日町は空き家バンクが充実していて、相談もしやすかったです。右も左も分からない土地ですから、住まい探

しから自治体でバックアップしてくれるのは助かります」と振り返ります。

一方、「住み始めてしばらくは、農繁期の農家さんでお手伝いをしていました。でも働く町民の方々を見ていたら、自分もじっとしていられなくて」と話すのは俊彦さん。「何か仕事をしたかったとき、前職が飲食業だったので、ここでまたお店を開きたいと思いました」

住宅隣接の納屋を改装した店舗は、俊彦さん手作りの木製バーカウンターや薪ストーブがあり、洋楽の流れる落ち着いた空間。バーとしての営業のほか、お昼のランチタイムも営業し、メニューはカレーライスやパスタ、ロコモコ丼などにスープとコーヒーが付きます。

メニューには、できるかぎり町の食材を取り入れており、自家製の燻製盛合わせにはダチョウ肉、ワインは朝日町ワイン、ソフトドリンクはりんご

ジュースと朝日町を存分に味わえる内容です。

「お酒を楽しんで、そのまま休めるようにといずれは民泊も視野に入れていきます」。唐木さんご夫婦は温かい笑顔で今後の夢を語りました。

◀ Dining & Bar Kara Kara ▶
▶ 営業時間
ランチ 正午～午後2時
ディナー 午後6時～10時
▶ 定休日 日・祝日
※季節によって変更あり。
▶ 問合せ先 ☎85-0688
▶ 地図



連載：あさひまちファンを全国につくっていこう！
by 朝日町ブランド化推進プロデューサー 村尾隆介

第21回

2年間の“ブランド化推進プロジェクト”を振り返る



ブランドの土ができたなら
まっとキレイな花が咲く

- 2年間この連載を読んでくださり、本当にありがとうございました。
- 中学生の修学旅行に、道の駅のオープン、マラソン大会や、デリシャスナイト…。
- <あさひまちブランド大学>の盛り上がりや、100を超すメディアへの登場…。
- 朝日町ファンは全国にたくさん増えました。視察団も今は各地から多数やってきます。
- ブランド化とは「知名度をあげること」「存在感を高めること」でもあります。
- その点、この2年で朝日町は大きく飛躍したと思います。
- 町外で「朝日町は最近元気だね」と声をかけられ、嬉しかったと語る町民も多いと聞きます。
- この2年間で、どう表現されたいか？ 僕の立場から考えれば、これがベストだと思います。
- それは、「この2年間は朝日町にとって、とても刺激的だった」というものです。
- この刺激、この間に生まれた町外との交流は、今後も朝日町の成長につながることでしょ。
- プロジェクト期間中に生まれた素敵なストーリーは多々あるのですが、僕は次の話が好きです。
- ブランド化に関わった中学生が「将来役場で町のために働きたい」と話しているという話です。
- この話には「刺激」「成長」や、地域づくりで欠かせない「人づくり」の要素が含まれていますね。
- ブランド戦略は「中長期的に成功するため」の戦略です。
- この中学生の例にあるように、2年間の刺激で確実に変わった人たちは少なくありません。
- そんなメンバーが町の主役になるころに、本当の意味でこのプロジェクトの花はひらきます。
- 世界のどこで見るのか分かりませんが、その開花を僕は誰よりも楽しみに待っています。



約 **50** 人 東京からの学生ボランティアの数



約 **120** 回 2年間の総メディア登場回数



ストレスがたまっていますか？

自分なりのストレス解消法を探しましょう



今月の担当…児玉 晴枝 保健師

少しずつ暖かくなり、春が近づいてきましたね。春は「出会い」と「別れ」の季節。卒業・進学・就職……。このころにストレスがかりやすくなります。

皆さん、「こころ」の疲れはありませんか？ ストレス解消でリフレッシュして春を迎えましょう。

平成26年度、町民の皆さんを対象とした健康づくりアンケートでは、「ストレスを解消できていますか」という問いに対して、「できている」と答えた方が65%、「できていない」と答えた方が31%でした。

ストレスは知らず知らずのうちにたまっていきます。平成27年12月から、従業員50名以上の事業所では「こころの健康診断」となるストレスチェック制度が始まりました。年に1回、職員全員が自らのストレスやメンタルヘルスについて考えるきっかけになります。自分で「おかしいな…」と思ったら早めの相談が大切です。



皆さんは、自分なりのストレス解消法がありますか？ 「話す」「笑う」「歌う」「本を読む」「音楽を聞く」「運動する」「料理する」など、自分に合った解消方法がきっとあるはず。いろいろチャレンジして探してみよう。

春からは町の運動教室も始まります。体を動かしてリフレッシュするのも気持ちいいですよ。ぜひご参加お待ちしております。

▼問合せ先
健康福祉課 健康推進係
☎ 67・2116

朝日町文化財探訪

だいぎょういんおい 第20回 大行院笈

町指定有形文化財 (歴史資料/昭和45年指定)



笈とは、修験者などが仏具や衣類・食器などを入れて背負って運ぶ箱です。この笈の材質は桧(ひのき)で手斧(ちょうな)けずり、金具は赤銅(しゃくどう)をたがね彫りし金箔押しで仕上げています。板と板の間を布貼りして漆で固めた、極めて実用的なところは他に類を見ない貴重なものです。作り方から見て鎌倉時代の作と思われ、羽目(はめ)外し板裏に「武蔵」と判読される墨跡(ぼくせき)があります。

「武蔵」と聞いて思い浮かべる人物は…？ 宮本武蔵という人が多いかもしれないね。この笈に書いてある武蔵は、武蔵坊弁慶だと伝えられているよ。弁慶は、剛力無双の荒法師として名高い平安時代末期の僧兵で、源義経に最期まで仕えたとされている人物。その弁慶が、修験のために大沼の地までやって来て、大行院に泊まり、宿代の代わりにこの笈を置いていったという伝説があるんだ。

ウサヒの眼



※当コーナーで紹介している文化財につきましては、所有者等の意向により所在や場所を明記していません。盗難等のトラブルを防ぐためです。ご了承ください。

土砂災害防止 絵画・作文コンクール

土砂災害の防止について、理解と関心を深めることを目的に、全国の小・中学生を対象に実施されている同コンクール（国土交通省主催）。その入賞結果が2月12日発表され、応募作品3,646点（県内からは46点）の中から、白川茂果さん（西五百川小6年）の作品が小学生絵画の部で優秀賞に輝きました。

本作品は同コンクールの県審査で最優秀賞に輝き、山形県代表として全国審査に出品。白川さんは「最初に聞いたときはびっくりした」と、驚きの中にも嬉しそうな笑顔で話しました。

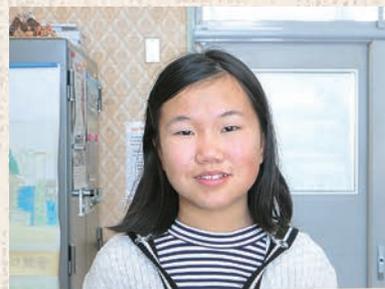
白川さんには、2月23日に県庁で行われた全国入賞者表彰伝達式で表彰状と記念品が贈られました。



2月23日に県庁で行われた表彰式で、賞状を受け取る白川さん



白川さんの入賞作品「にげる!! 土砂災害だ!」



白川 茂果さん

西五百川小6年（常盤）

「土砂災害が起きたときに、ただ見ているだけでなく、お互いに声を掛け合って逃げてほしいという思いを込めて描きました。土砂や山々の色合いを暗めにして、人や伝えたい思いを明るい色で工夫しました」

春夏秋冬 編集後記

あれから5年―。もうそんなに経ってしまうのかと思う程、当時に振り返れば鮮明な記憶が蘇ります。東日本大震災。町内に直接的な被害はありませんでしたが、長時間の停電や燃料不足など「この経験は絶対に忘れない」と誰もが心に誓ったはず。今も心の中で「また起きるかも」と備えていますか。決して忘れてはならない記憶。経験した者だからこそ得た教訓を、次世代の子どもたちに伝えていかなければなりません。あの日の経験を未来への糧として、日頃から一人ひとりが減災に努めていきましょう。 白田 淳

特集で紹介させていただいた阿部真那佳ちゃんと私の娘の誕生日は数日違い。私も娘が誕生日を迎えるたびに震災のことを思い出します。停電の中、暖をとるために親類から石油ストーブを借りてきたり、粉ミルクや紙オムツを手に入れるためにあちこちに車を走らせたり…。苦労した経験はこの先もずっと忘れることはないでしょう。大切なのはこうした経験を「過去のこと」として終わらせるのではなく、「未来に生かす」こと。5年の節目を機に、自分自身も我が家の備えを見直します。 佐久間 淳